



経営理念

「私たちは安全で安心して楽しく生活できる豊かな社会を創造します。」
当社は、「安全」な環境であれば「安心」な生活ができると考えます。
豊かな社会とは「安全」で「安心」して生活すること、すなわち安全で安心して生きることを感じることであります。豊かな社会を渴望することで新たな社会を創造していくことができます。
誰でも楽しく生活することのできる豊かな社会を皆でつくりあげましょう。

今年の夏は全国各地で豪雨による災害が多く発生しました。特に「平成30年7月豪雨」では、岡山県や広島県を中心に200人以上の方がお亡くなりになりました。また、現在も自宅で生活することができず、避難生活を余儀なくされている方も数多くみえます。

今月号では、『平成30年7月豪雨』を教訓に『私たちができる備え』をあらためて考えてみました。

被災時と避難生活における問題点を検証し、その改善策を考えました。

編集担当 岡本知子

被災した時の問題点と改善策

《問題点》

犠牲になられた方の多くは逃げ遅れが多かったようです。
避難しなかった理由として

- ・避難するほどの状況ではないと思った。
- ・自宅の2階以上に避難すれば大丈夫だと思った。
- ・自宅が高いところにあるため被災しないと思った。
- ・避難するほうが危険だと判断した。
- ・自宅が被災するなど思ったことがなかった。
- ・避難指示と避難勧告の違いが分からなかった。



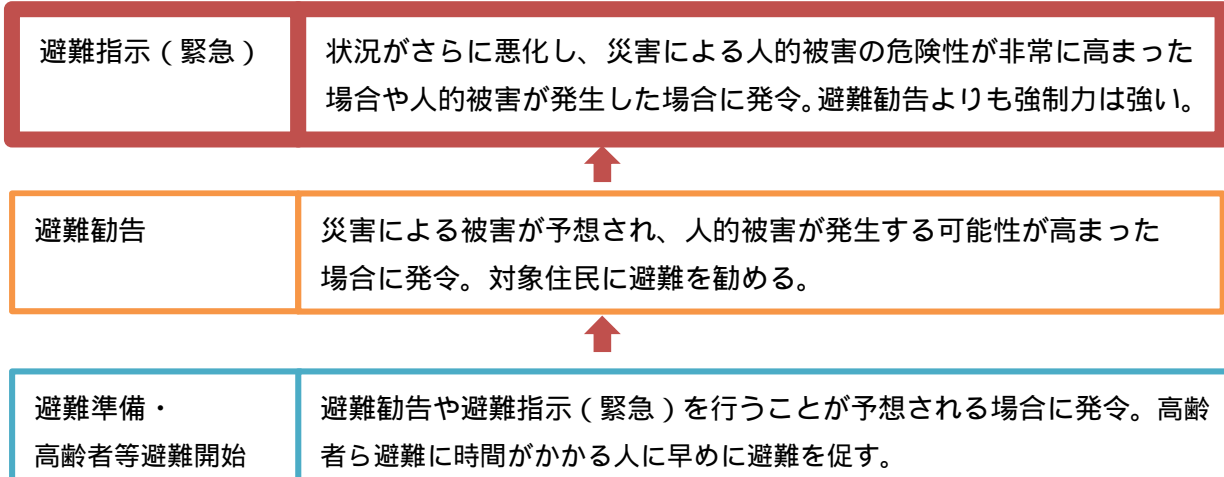
など、自分の場所は大丈夫だと思っていて、浸水し始めてから避難をする人も多いようでした。
また『平成30年7月豪雨』では、豪雨の音で防災無線が聞こえなくて避難できなかった人もいたようです。

《改善策》

- ・各自治体が出しているハザードマップを確認して、自分が住んでいる地域がどのような災害を被るのか、避難場所はどこかなど改めて確認をする。
*ハザードマップも洪水、内水、高潮、津波、土砂災害、地震防災・危険度マップがあります。
- ・ラジオ、ニュース、携帯などの情報で、避難勧告などの発令が出た場合には、すみやかに避難をする。



【避難勧告と避難指示の違い】



避難準備の情報が出されたら避難場所に向かうようにし、その際に近隣住民にも声をかけ、一緒に避難をしたほうがいいと思いました。

避難生活での問題点と改善策

あるアンケートによると、被災直後に困ったことの

第1位は「水の確保・持ち運び」だそうです。



1位	水の確保・持ち運び
2位	携帯が繋がらない、連絡ができない
3位	食料の確保
4位	お風呂・トイレ
5位	明かりがつかない
6位	寒さ、暑さ対策
7位	自分の住んでいる地域でどんな危険があるのか
8位	食器等日用品の入手
9位	感染症などの健康管理
10位	乳幼児の体調管理



色々な防災グッズを見ても必ず入っている飲料水。準備されている方は多いと思います。でも、トイレ用や手を洗う用などの「生活用水」まで考えると想像以上の水が必要になってきます。それを自宅で常時保管しておくのには、限界があります。

《問題点》

「生活用水」まで、常時保存できないので、必ず水の持ち運びは必要になってくる。

《改善策》

水は、「飲料水」だけでなく「生活用水」も考える必要があります。



水は、持ち運ぶ必要があることを念頭に置いて、ポリタンクを準備しておきましょう。

また、「非常用トイレ」を備えておくことをお勧めします。

弊社は、富士メンテニール(株)のさわやかトイレを保管しています。水が使えなくても、トイレに保護シートを設置して凝固剤を投入することによって可燃ごみとして捨てられる商品です。



第2位は、「携帯が繋がらない、連絡ができない」です。

手元にスマホがないだけでも不安になる時代に、連絡がつかないのは想像を超えた状況だと思います。時間が経つにつれて電池も消費してしまいます。

《問題点》

携帯電話が繋がらずに、家族などと連絡がとれない。

《改善策》

災害時でも公衆電話は使えることが多いので、避難場所の近くに公衆電話があるかどうか確認しておきましょう。そして災害用伝言ダイヤル(171)の使い方も確認しておきましょう。



第3位は、「食料の確保」です。

缶詰や乾パンなど長期保存できるものを保存している方は多いと思います。でも、毎日冷たい食事では、精神的につらくなってくると思います。

《問題点》

普段食べ慣れない缶詰やレトルト食品などを食べるが多くなるので、食事が味気なくなってしまう。

《改善策》

カセットコンロやキャンプ用の調理器具なども活用することを考えておきましょう。

温かい食事は、被災した人々を精神的に安心させると言われています。



避難生活は、どんな様子なのか実際に経験をしないとわからないとは思いますが、

『自分の地域にもいつか災害が来る』と想定して、事前に備えることがとても重要だと思いました。

私は（岡本知子）今回編集をしていて、ふと障害児を持つ家族は、どのように避難所での生活を送っているのだろうと思い調べてみました。

過去の災害では、障害児を持つ家族は、周りに迷惑が掛らないように車の中で過ごす方が多かったそうです。

私が住んでいる中村区では、『災害時要配慮者（障害児者）支援ガイドブック』を作成していることを知りました。

そのガイドブックには、それぞれの障害についての配慮が書かれていました。

「障害者が安心して避難出来る場所であってほしい。」

「障害について理解ある人が多く出来ればいい。」

などのガイドブック作成者の声を書いてあり、周りの方々の助けも必要だと感じました。

私は今回、こういうガイドブックがあることを知り、すごく為になりました。

たくさんの人にこのガイドブックを知っていただきたいと思いました。

<http://www.city.nagoya.jp/nakamura/cmsfiles/contents/0000080/80136/GBzentai.pdf>

うちの子は、毎朝飲んでいる薬があるので、避難時に欠かすことが出来ない物の1つです。

人それぞれ非常用品は違うと思います。

もう一度、何が1番必要な物かを考えていきたいと思いました。



新スタッフのご紹介

8月からイレブンエクシードに新しいメンバーが加わりました。

主に図面作成や施工管理を担当致します。



かんばら たかし

神原 孝司

約40年間、建築関係に携わってまいりました。
その経験を生かし、御客様に満足していただける
品質の高いサービスを提供させていただきたい
と思っております。

宜しく願い申し上げます。

夢：平穏な日々で有れば問題無し

趣味：のんびりと絵でも描きたいですね

「イレブンエクシード通信」は、弊社とお取引させていただいた方に送付させていただいて
おります。ご不要の場合は、恐れ入りますが、ご一報ください。

